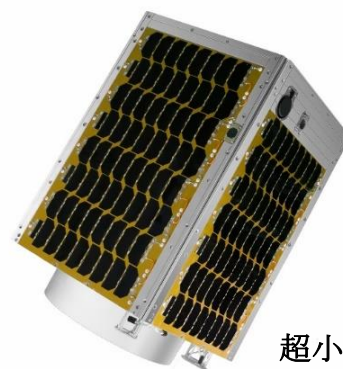

「超小型人工衛星 CE-SAT-I」が「2017年度グッドデザイン賞」を受賞

本年6月23日にインドのPSLV-C38ロケットより打ち上げられ軌道投入に成功した弊社開発・製造の「超小型人工衛星 CE-SAT-I」が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2017年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



超小型人工衛星 CE-SAT-I

質量 65kg、外寸 500mm×500mm×850mm、衛星内部にキヤノン製デジタル一眼レフカメラと直径約 400mm の反射鏡を組み合わせた光学的画像処理システムを搭載しており、6km×4km のフレームサイズで地上 500km の軌道上から 0.9m の地上分解能(GSD)画像を取得できます。キヤノングループが事務機開発で培ってきた技術を結集し、低価格、高性能で早期デリバリーを目指す小型地球観測衛星の初号機で、弊社の宇宙ビジネス立ち上げの第一歩としての役割を果たしております。

審査委員評価コメント

人工衛星は必要不可欠な存在となり、今後の宇宙ビジネスの発展が期待される。人工衛星はどこまで小型化し、高性能化するかといった興味もあるが、民生技術がどこまで有効活用されるのかも大変に気になる点である。高精度、高品質、低コストを実現してきた日本の製造技術が、これからの宇宙産業をどこまで変革するのか、とても興味ある課題だ。頭上を見上げると、多くのデジカメが宇宙の遙か彼方を飛んで撮影・観測し、街に溢れる監視カメラと連携するなど、高度情報社会の発展が面白い。宇宙開発で培った最先端の特別な技術だけでなく、当たり前技術が活用され、社会に還元する時代の到来に期待したい。

今回の受賞製品は、グッドデザイン賞の受賞展示イベント「グッドデザインエキシビション 2017」(東京都港区・東京ミッドタウン/2017年11月1日～5日)における、受賞件数ランキング上位企業による特別展示「スーペリアカンパニー2017」のキヤノンブースにて、キヤノングループ受賞製品と共に、展示される予定です。